

小 学 校

平 成 14 年 度

教 育 研 究 員 研 究 報 告 書

家

庭

東 京 都 教 職 員 研 修 セ ン タ ー

平成 14 年度

教育研究員名簿

地 区	学 校 名	氏 名
新 宿 区	戸 山 小	◎ 海 老 澤 比 佐 子
世 田 谷 区	明 正 小	中 村 み ゆ き
豊 島 区	南 池 袋 小	水 上 秀 美
練 馬 区	開 進 第 三 小	佐 藤 玲 子
足 立 区	中 川 小	齋 藤 麻 由 子
東 村 山 市	萩 山 小	森 山 洋 子

◎世話人

担当 東京都教職員研修センター統括指導主事 小 谷 野 茂 美

目 次

目次と研究の概要	1
I 研究主題設定の理由	2
II 研究の構想	3
III 研究の内容	
1 実態調査	4
2 家族とのかかわりを大切にしたい年間指導計画（2年間を見通して）	8
3 実践事例	
事例1 家族を交えて報告会を開く 第6学年 「夏休み実践報告会」	10
事例2 家族といっしょに我が家のみそ汁を考える	13
事例3 家族といっしょに一食分の食事を考える 第6学年 「楽しい食事を工夫しようⅡ」	
IV 研究のまとめと今後の課題	24

<研究の概要>

家族とのかかわりを大切に、心豊かな生活を工夫しながらつくり出せるように、家庭科の学習指導要領の内容1（エ）「家族との触れ合いや団らんを楽しむ工夫をすること」を研究の視点とした。

実態調査の結果、最近の家庭の状況は、価値観や生活習慣などが多様化し、家族そろって食事をすることが少なくなっているが、子どもたちの家の仕事や家族にしたいことは「食」にかかわることが多かった。

そこで、自分の食生活を見直しながら、家族とのかかわりを大切にする心を育てるために、家族とのかかわりを「食」を通して学習することとし、2年間の指導計画を作成した。家族との交流を図る指導法や学習過程における評価を工夫し、授業研究に取り組んだ。

子どもたちは自分の生活を学習カードの集積を参考に振り返り、自分なりに工夫できることを見つけ出すことで、進んで家庭生活に生かそうとする意識が向上した。

家族とのかかわりを大切にし、心豊かな生活をつくり出す子どもの育成

Ⅰ 研究主題設定の理由

今、子どもたちに求められている「生きる力」を育成するために、家庭科では、家庭のあり方や家族の大切さを取り上げている。生活の仕方が多様化し、日常生活の中でわたしたちが求めている豊かさの基準や価値観は様々であるが、本研究では、人とのかかわりながら生活していく上で、金銭では得られない心のやすらぎや思いやり、感謝の気持ちなど精神的な豊かさが必要であることに焦点を当てて取り組むこととした。

多くの人たちとのかかわりの中で、身近な人間関係としては、家族・友だち・近隣の人たちなどがあげられるが、子どもたちにとって一番身近な存在は、「家族」である。家庭生活は様々であるが、自分が家族の一員であること、また、家族に支えられて生きていることに変わりがないことに気づかせたい。そこで、研究の重点としては、学年の目標（３）「自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする態度を育てる」、内容（１）エ「家族との触れ合いや団らんを楽しくする工夫をすること」とした。

そして、感謝の気持ちを持ち、自分と家族とのかかわりを考え、触れ合いや団らんを楽しむために、自分なりに工夫できることを見つけ出し、進んで家庭生活の中に生かしていくことを、本研究では「心豊かな生活」として考えた。

さらに、子どもたちの家庭生活の現状を把握し、研究の方向性を探るために、家族と共に過ごす時間や家の仕事の状況についての実態調査を行うことにした。調査結果から、家庭で子どもたちが実践している仕事の内訳として、「食」に関する仕事のかかわりが多く、食事時間の過ごし方について子どもたちは家族と楽しく過ごしたいと思っていることが分かった。この実態調査の結果を受け、「心豊かな生活」を「食」の面から考え、研究を進めていくこととした。内面的な成長の著しい５・６年の時期に、自分の家庭生活を見つめ直し、主体的なかわり方を工夫していくことを通して、「心豊かな生活」とはどういうことか考えさせていきたい。

研究を進めるに当たり、題材の構成については次のように考えた。題材は「楽しい食事を工夫しようⅠ・Ⅱ・Ⅲ」として設定し、１年間を通して、楽しい食事とはどういうことか、食事を楽しむためにはどのような工夫ができるか、家庭生活を振り返りながら学習が進められるように家族とのかかわりを大切にしたい指導計画を立てた。さらに、学習したことを日常生活の中で生かしていくためには、家族がお互いに関心を持ち、共に考え、協力していくことが大切であるため、家庭科の学習においても家族を招いて一緒に学習することにより、家庭での実践につなげていきたいと考えた。そして、自分の家庭生活を見つめ直し「楽しい食事」を自分なりに工夫することを通して、進んで家族との時間を大切に、家族と共に協力しあって「心豊かな生活をつくり出す子」を目指し、本主題を設定した。

II 研究の構想

＜家庭科で育てたい力＞

教科の目標

衣食住などに関する実践的・体験的な活動を通して家庭生活への関心を高めるとともに日常生活に必要な基礎的知識と技能を身に付け、家族の一員として生活工夫しようとする実践的な態度を育てる。

学年の目標（第5学年及び第6学年）

- （1）衣食住や家庭の生活などに関する実践的・体験的な活動を通して、家庭生活を支えているものが分かり、家庭生活の大切さに気付くようにする。
- （2）製作や調理など日常生活に必要な基礎的な技能を身に付け、自分の身の回りの生活に活用できるようにする。
- （3）自分と家族などのかかわりを考えて実践する喜びを味わい、家庭生活をよりよくしようとする態度を育てる。

研究の視点

内容（1）エ

家族との触れ合いや団らんを楽しむ工夫をすること。

＜社会的背景＞

- ・価値観が多様化している。
- ・生活の仕方が多様化し、それぞれの家庭事情により、家族そろっての食事は難しい。

＜児童の実態＞

- ・仕事を通して家族の役に立つことをうれしく思っている。
- ・家族とふれ合う時間は食事の時間の割合が多い。
- ・家族と楽しく話せるので食事の時間が楽しい。
- ・家族のためにしたい仕事は、食に関することや家族に関することの割合が多い。

＜教師の願い＞

- ・基礎的・基本的内容を定着させたい。
- ・身に付けた力を家庭で継続的に活用し、主体的に生活してほしい。
- ・家族とのかかわりを大切にし、自分なりに工夫して生活してほしい。
- ・子どもたちが最も家族とのかかわりがあると感じている食事の時間を大切にしてほしい。

＜育てたい児童像＞

- ・家族と協力し合って心豊かな生活をつくり出す子。
- ・学んだことを自分なりに工夫して家庭生活に生かせる子

研究主題

家族とのかかわりを大切にし、
心豊かな生活をつくり出す子どもの育成

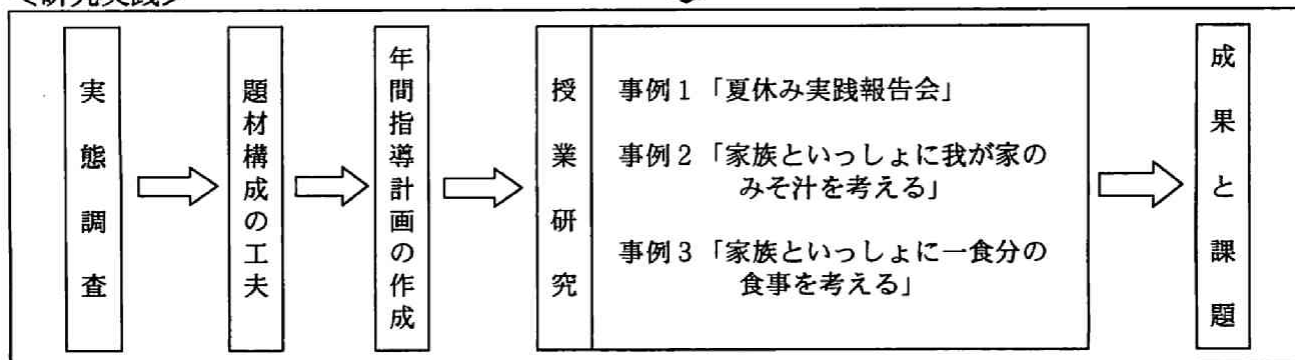
＜仮 説＞

「食」を通しての学習を家族と共に進めることで、家族とのかかわりが深まり、家族と協力し合って、心豊かな生活をつくり出す子に育っていくだろう。

＜育てたい児童像を実現するための手だて＞

- ・家族とのかかわりを大切にした題材構成の工夫。
- ・家族を交えた指導法の工夫。
- ・学習活動の過程における評価の工夫。

＜研究実践＞

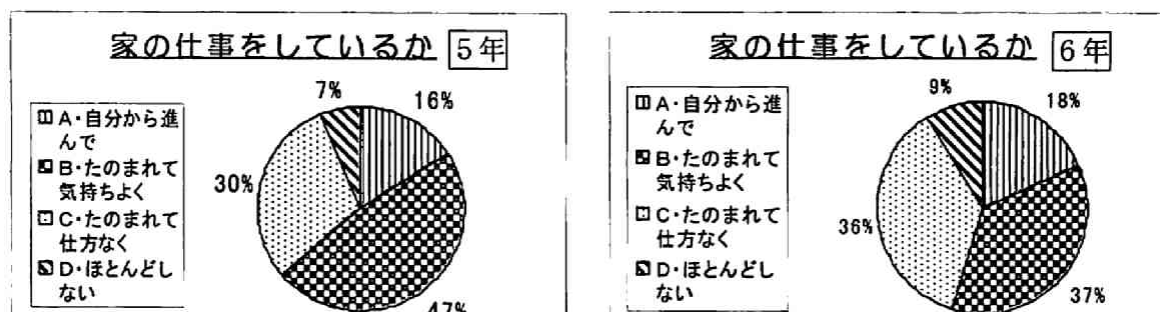


Ⅲ 研究の内容

1 実態調査＜抜粋＞

- (1) 目的 家庭の仕事や食事の状況を「家族とのかかわり」から実態調査することにより、子どもたちの思いや願いを把握し指導に役立てる。
- (2) 時期 平成 14 年 6 月下旬
- (3) 対象 研究員所属小学校の児童 第 5 学年 429 名 第 6 学年 536 名
- (4) 方法 質問紙法
- (5) 内容と結果および考察

問 1-1 あなたは家の仕事をどのくらいしていますか。



問 1-2 家の仕事でよくやる仕事を 3 つ書いてください。(人数)

	5 年	6 年		5 年	6 年
食に関すること	310	442	住に関すること	240	375
準備・配膳	56	130	風呂そうじ	96	168
食事作り・米とぎ	103	110	風呂わかし	5	9
食器洗い・後片付け	151	112	部屋の掃除(整理も)	77	98
衣に関すること	104	160	その他の場所のそうじ	13	8
洗たく関係	100	150	カーテン窓雨戸の開閉	13	9
アイロンかけ	4	8	かぎしめ	0	2
その他	0	2			
その他の仕事	356	345			
布団の上げ下ろし	90	40			
ゴミ出し	74	60			
買い物	43	108			
新聞取り	53	49			
ペットの世話	54	38			
その他	43	50			

＜結果＞

家の仕事は「たのまれて仕方なく」を含めると 90% 以上の子どもたちが取り組んでいるが、「自分から進んで」主体的に仕事をしている割合は 10% に満たない。よくやる家の仕事は、5・6 年共に食器洗い・米とぎ・配膳など「食」に関することが多い。6 年になると風呂そうじや、買い物、洗たくなど 5 年より生活技能を必要とする仕事が増える。

<考察>

90パーセント以上の子どもたちが仕事をしているという結果から、子どもたちは家族への協力についての意識をもっていると考えられる。5年生と比べると6年生は「仕方なくする」子どもたちが増えている。塾や習い事などが増えることが原因のひとつと考えられる。自分も忙しいが、家庭の仕事を大事と考え、「仕方なく」が「進んで」となるように家族とのかかわりを深め、協力して生活するために自信をもってできる仕事が増えることが望ましい。そのため家族とのかかわりを大切にしたい指導計画を立てる必要を感じた。

問2 家族そろって過ごす時間はどんな時ですか。(人数)

	5年	6年
A・食事	215	312
B・テレビ	150	201
C・団らん	65	108
D・外出	143	177
E・その他	19	22

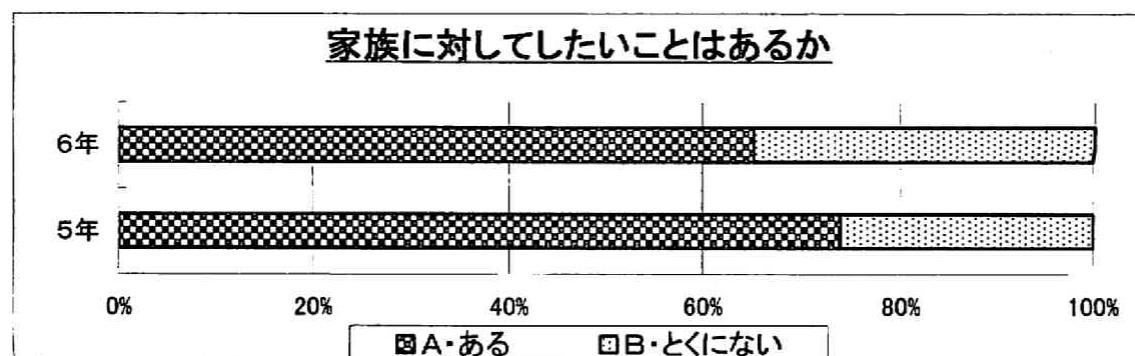
<結果>

家族そろって過ごす時間は全体の半数以上が「食事」の時間をあげている。テレビ、外出も多く、団らんという答えは少ない。

<考察>

「食事」が唯一家族とのかかわりの場という場合も多く見られることから、この場面を有効に活用して、心豊かな子どもを育てたい。そのために研究の切り口を「食」の学習とした。

問3-1 家族に対してしたいことはありますか。



問3-2 家族に対してしたいことは何ですか。(人数)

仕事の面から	5年	6年	気持ちの面から	5年	6年
料理(米とぎ)	62	66	手伝い、進んで仕事をする	71	115
食器洗い・片付け	15	11	できること、役に立つこと	16	10
マッサージ・肩もみ	37	32	喜ぶこと、やってほしいこと	8	15
洗濯関連	10	13	なんでも・いろいろ	3	8
掃除・片付け	6	17	大変そうなこと	8	4
風呂掃除・沸かし	5	7	大人になってから(旅行・親孝行等)	8	19
家族の世話・協力	2	4	暮らしを楽しくしてあげたい	1	5
ゴミ出し	0	2	休日の家事	1	4
ペットの世話	3	3	節約	0	3
その他	11	15	家族の期待に応えること	0	2

問3-3 家族に対してしたいことはないかと答えた人の理由（人数）

	5年	6年
A宿題や塾・習い事で時間がないから	42	64
B やっても家族が喜びそうにないから	20	38
C やる気にならないから	44	44
D その他	10	31

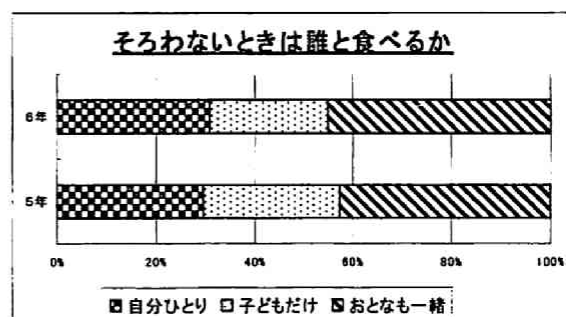
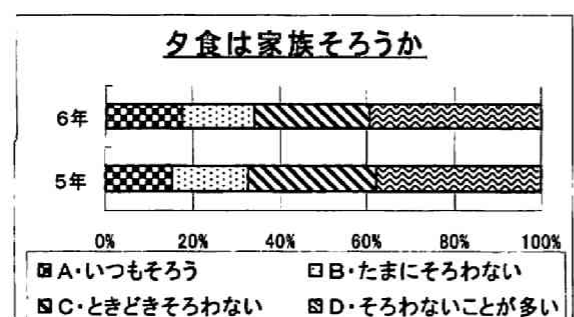
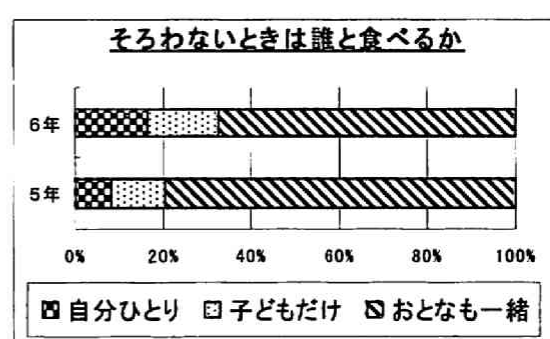
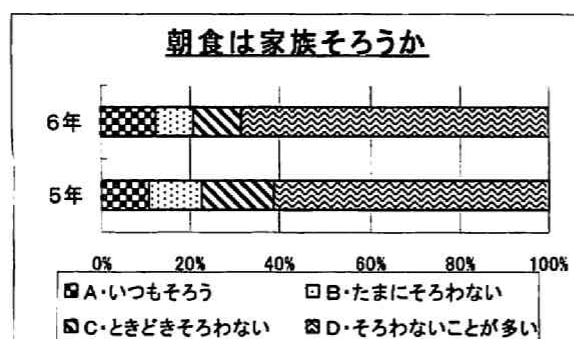
<結果>

家族に対してしたいことの内容は手伝い、進んで仕事をするという気持ちの面での答えが多く、仕事をしたい気持ちはあると思われる。しかし実際は「仕方なく」仕事をしている子どもたちが多い。具体的には、料理・食器洗いなど「食」に関することが多い。マッサージや親孝行などの答えも目立つ。特にないと答えた子どもたちは塾・習い事を理由にあげる子どもが多く、6年生にその割合が増える。

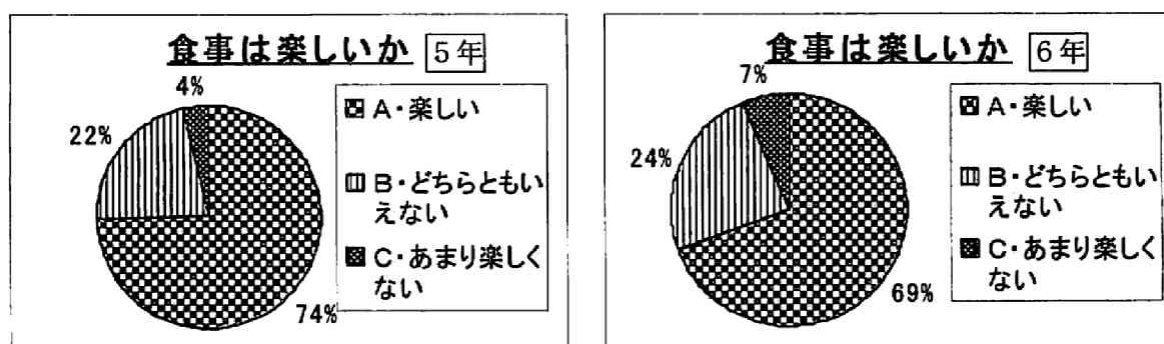
<考察>

マッサージや親孝行などと答えていることに暮らしを楽にしたいという家族への思いやりが感じられる。また、60%強の「家族に対してしたいことがある」という気持ちを大切に、生活の技能を高めたり、できることを増やしたりして「仕方なく仕事をする」から「進んで仕事をする」子どもたちに育てていきたい。また、時間がないという子どもたちには生活時間の見直しと家族の一員としての意味を考えさせ、よりよい家庭生活を自らつくっていかうとする意欲をもたせていきたい。そして「やっても喜びそうにない」と答えた子どもたちについては、どうしてそう感じるのかを検証し、改善していくとともに、家族の協力を呼びかけるなど、具体的な支援の方策を立てる必要を感じる。

問4-1 朝食・夕食に家族がそろっていますか。そろわないときは誰と食べますか。



問4-2 食事は楽しいですか。



問4-3 その理由は何ですか。(人数)

A 楽しい理由	5年	6年	B どちらともいえない理由	5年	6年
おいしい	41	55	会話が進まないといつまらない	5	14
みんなで食べる	34	19	家族がそろわないといつまらない	9	10
話ができる	78	147	話さない	3	6
食べるのが好き	2	3	話の内容による	4	5
家族とふれあえる	0	7	食事の内容によって	5	6
落ち着く・ゆっくり過ごせる	2	7	テレビがおもしろくない時はつまらない	2	2
その他	5	12	楽しくもつまらなくもない	5	0
C あまり楽しくない理由	5年	6年	テレビが見たい	2	2
(時間がなく)話さない	5	4	テレビを見ている	2	2
話の内容がいや	5	5	その他	6	14
全員がそろわない	2	4			
その他	1	10			

<結果>

朝食は30%の子どもたちは家族そろって食べている。そろって食べていない子どもたちの55%は子どもだけや一人で食べている。夕食は60%の子どもたちは家族そろって食べている。また朝食よりも夕食は家族と一緒に食べている。5年生より6年生に一人で食べる子どもが多い。

70%の子どもたちが食事の時間は楽しいと思っている。食事の楽しい理由としてみんなで食べる、おいしい、話ができるなどをあげている。どちらともいえないを答えた児童の理由にはテレビの内容や食事のおいしさが食事の楽しさに影響している。

<考察>

「〇〇(家族の名前等)がいないといつまらない」など家族がそろって食事をすることを楽しみにしていることから、食事が家族との触れ合いの時間となっていると考えられる。忙しい毎日を過ごす中で、食事の時間を、家族と共に過ごす大切な時間と位置づけ、楽しく過ごすための工夫の仕方に意欲的に取り組んでほしい。また、どちらともいえない、楽しくないと答えた子どもたちには、食事の時間が家族とのかわりを深め、楽しい時間となるように指導していきたい。そのために、内容(1)エを研究の視点に当てることが重要であると考えて題材構成を工夫した。

(6) 実態調査のまとめ

この実態調査から、家族が共に過ごす時間が「食」に関する時に多くもたれていることが分かった。また、子どもたちが家の仕事をする時やこれから家族に対してしたいと思うことも「食」に関することが多くあげられ、家族の役に立つことをうれしいと思っていることが分かった。また、楽しい食事のとらえ方も、食事がおいしいというだけでなく、会話のはずむ団らんの場合として感じている子どもが多い。他に、家族にしたいこととして、自分の作った料理を食べてほしいとか、母の日・父の日や家族の誕生日にプレゼントとして手作り料理をごちそうしたいという思いを寄せる子どもが多かった。しかし実際は「進んで仕事をする」子どもは少なく、「仕方なく」仕事をしている子どもの割合が多かった。このことから家族とのかかわりの大切さを「食」を切り口に、自分と家族とのかかわりを考え、触れ合いや団らんを楽しくするために、自分なりに工夫できることを見つけ出し、進んで家庭生活の中に生かしていくことで心豊かな生活をつくり出せるのではないかと考えた。そこで家族とのかかわりを大切にしたい指導計画を作成し、『「食」を通しての学習を家族と共に進めることで、家族とのかかわりが深まり、家族と協力し合って心豊かな生活をつくり出せる子に育てていこう』という仮説を立てて研究を進めることにした。

2 家族とのかかわりを大切にしたい年間指導計画（2年間を通して）

(1) 題材構成

実態調査から、家族そろって過ごす時間の多くは食事の時間であるという結果をうけて、「家族とのかかわり」と「食」に重点をおいた年間指導計画を立てた。5学年では基礎的・基本的な内容の定着を図り、6学年ではその力をさらに高めるように計画した。このような観点で年間指導計画を作成したことにより、「食」の学習を通して、基礎的・基本的な内容を身に付けながら、家族とのかかわりを大切にする、心豊かな生活をつくり出す子どもたちを育てることができると考えた。

また、2年間を通して題材の系統性を考慮し、子どもの思考の流れに沿うように、次のようなⅠ・Ⅱ・Ⅲの段階で構成した。

生活ウォッチングⅠ～Ⅲ
クッキングにチャレンジⅠ～Ⅱ
ソーイングにチャレンジⅠ～Ⅲ
楽しい食事を工夫しようⅠ～Ⅲ

Ⅰでは基礎的・基本的な内容の理解、Ⅱでは基礎的・基本的な内容の定着、Ⅲでは基礎的・基本的な内容の応用と考えた。特に楽しい食事を工夫しようⅠ～Ⅲ（食の発展の学習）では、授業において家族の方の参加を呼びかけ、家族とのかかわりをより深める授業展開を試みた。

さらに、家族とのかかわりを大切にするために、主な内容項目として、6学年のすべての題材を【内容（1）エ 家族との触れ合いや団らんを楽しくする工夫をすること】とかかわらせて構成した。

(2) 家族とのかかわりを大切にしたい年間指導計画(2年間を見通して)

	題材名(★は実践事例)	小題材名(★は実践事例)	時数	主な内容項目
5 学 年 (60)	家庭科室を探検しよう		1	
	生活ウォッチングⅠ	家庭の仕事ってなあに？	2	(1) アイ
		仕事にチャレンジ	2	
	クッキングにチャレンジⅠ	なぜ食べるの？	2	(5) イウカ
		衛生と安全に気をつけて	2	
		ゆでて食べよう	4	
	ソーイングにチャレンジⅠ	さいほう道具を使って見よう	4	(2) イ (3) イウ
		小物を作ろう	4	
	夏休み実践報告会		1	
	衣服を気持ちよく	なぜ着るの？	1	(2) アイ
		せんたくにチャレンジ	2	
	ソーイングにチャレンジⅡ	ミシンを使ってみよう	8	(3) イウ
		ウォールポケットを作ろう	4	
	クッキングにチャレンジⅡ	食品をグループ分けしよう	3	(4) ア
		野菜探検隊	2	(5) アウ
		いためて食べよう	4	
	冬休み実践報告会		1	
	生活ウォッチングⅡ	整理せいとんやそうじ	4	(6) ア (8)
		不要品やりサイクル	4	
	生活に生かそう	出来るようになったこと	5	(1)～(8)
6 学 年 (55)	生活ウォッチングⅢ	快適な住まい方を考えよう	6	(1) ウ (8)
		近隣の人とのつながりを考えよう	2	(6) イ (1) エ
		生活時間を見直そう	2	
	楽しい食事を工夫しようⅠ	朝食について考えよう	2	(4) ア (7) アイ (1) エ
		買い物の仕方を考えよう	3	
		家族が喜ぶおかずを作ろう	4	
	夏休み実践報告会★		1	
	楽しい食事を工夫しようⅡ	ごはんのみそ汁を作ろう★	6	(4) イ (5) エ
		食事の仕方を見直そう	3	
		一食分の食事を計画しよう★	2	(1) エ
		食事を家族で楽しもう	1	
	ソーイングにチャレンジⅢ	家族の生活に役立つ物を製作しよう	12	(3) ア (1) エ
	楽しい食事を工夫しようⅢ	ありがとうを伝えよう	9	(1) エ (3) イ (5) オ
		家族と協力して生活しよう	2	

3 実践事例

事例1 家族を交えて報告会を開く

(1) 題材名 第6学年 「夏休み実践報告会」

(2) 本事例と研究主題に迫るための手だてとの関連

実態調査の結果から「食」の時間が栄養をとるだけでなく家族との触れ合いの時間になっていることが分かった。家庭科で学習したことを生かして家で実践してくるという宿題を夏休みに出したところ、「食」に課題をもつ子どもが多く、実践カードの家の人の言葉から調理体験が家族との触れ合いや団らんの時間を多くもてていることがうかがえた。そこで本事例では「食」の時間の過ごし方を考え工夫していくことがよりよい家庭生活を目指そうとする力になると考え、研究主題に迫るための手だてとの関連を次のようにした。

- ① 家族とのかかわりを大切にしたい題材構成の工夫・・・夏休みの課題を今まで家庭科で学習したことの中から自分でできることを実践し、家族みんなで楽しむこととし、次に学習する「楽しい食事を工夫しようⅡ」の導入とした。
- ② 家族を交えた指導法の工夫・・・夏休み実践報告会に家族も参加してもらい、家族から直接話を聞いて発表を共有することにより、自分の生活を見つめ直すきっかけとなり、一人一人が自分なりに工夫できることを見つけ、家庭生活に生かしてほしいと考えた。
- ③ 学習活動の過程における評価の工夫・・・評価の方法として自己評価カードを工夫した。
本時のカードを「楽しい食事を工夫しようⅡ」の学習カードの1ページ目に位置づけ、このとき感じたことや家族の子どもたちに対する思いをいつでも振り返られるようにした。
なお、本題材の評価の観点を次のように設定した。

観点	評価規準 内容(1)エ	本題材の具体的な評価規準
家庭生活への 関心・意欲・態度	家族との触れ合いや団らんを 楽しくしようとしている。	友達や家族の話で気づいたことや自分の生活に取り入れられることをメモできている。自分の感想や家の人の言葉が書けている。
生活を創意工夫する 能力	家族との触れ合いや団らんを 楽しくもてるよう、考えたり自分なりに工夫している。	友達の実践で、「いいなあ」「やってみたいな」と感じ、家族とのかかわりから自分なりの工夫の仕方が書けている。

(3) 本時の学習

① 目標

夏休みの実践発表を聞き合い、自分の生活を見つめ直すきっかけができる。

② 学習活動の過程における評価

学習活動	教師の支援 (○) と評価 (*) 家族とのかかわり (◎)	* 評価 方法
夏休みの実践を発表しよう		
・話す内容を整理する。	○一人2分程度で発表する内容を整理する。 (◎) 家族がかけてくれた言葉や自分の気持ちなども加えて発表する。	* 発表
・グループ内で発表する。	* 家族の人との触れ合いを楽しく持つことができる。(関)	* 学習 カード
・グループ代表が発表する。	* 自分なりに発表でき、友達の実践のよいところや工夫をメモできている。(関) ★1	* 発表 * 観察
・友達の実践を聞いて感想を発表する。	* 友だちの実践のよいところを自分の生活に取り入れようとしている。(創) ★2 (◎) 家族の人の夏休みの実践の感想を家族とのふれあいに焦点を当て考えられるようにする。	* 学習 カード
・家の人の感想を聞く。	* 家族の人の話を、関心を持って聞くことができる。(関) ★3	* 観察 * 学習 カード
・次回の予告「楽しい食事を工夫しよう」	○次の学習はポートフォリオにまとめることとし、夏休みの実践カードをその1ページ目にして作ることを伝える。	

★1の評価

・毎日お使いに行っているのはえらいと思った。つみかさねてやることによって少しでも多くのことやっていきたいです。

・ぼくは○君のチャーハンを作ってみたい。また、キムチもいれてみるともっとうまくなるんじゃないかなと思った。

「おおむね満足」

友達の発表をよく聞き、自分なりの感想かかっている。

★2の評価

・同じことでもいろいろ一人ずつ「オリジナル」があって「工夫が」あっていいなと思った。ちがう料理にも挑戦して、うまくなるようにがんばります。

・家の人のアドバイスを聞いてドンドン友達の見解を聞いてちょうせんしていきたいと思っています。

「おおむね満足」

次に実践する意欲や工夫が見られる

★3の評価

・料理もいいけれど、そうじや家事なども両親の負担が軽くなるのでこれからどんどんやっていこうと思った。

・自分でやったことで家族の感謝が深まる。ぼくももっとレベルアップしているものを作りたいです。

・話を聞き「あ、お母さんのことたすけてあげないと」と思いました。「もう少し1人で何か進んでやしないと」と思った。

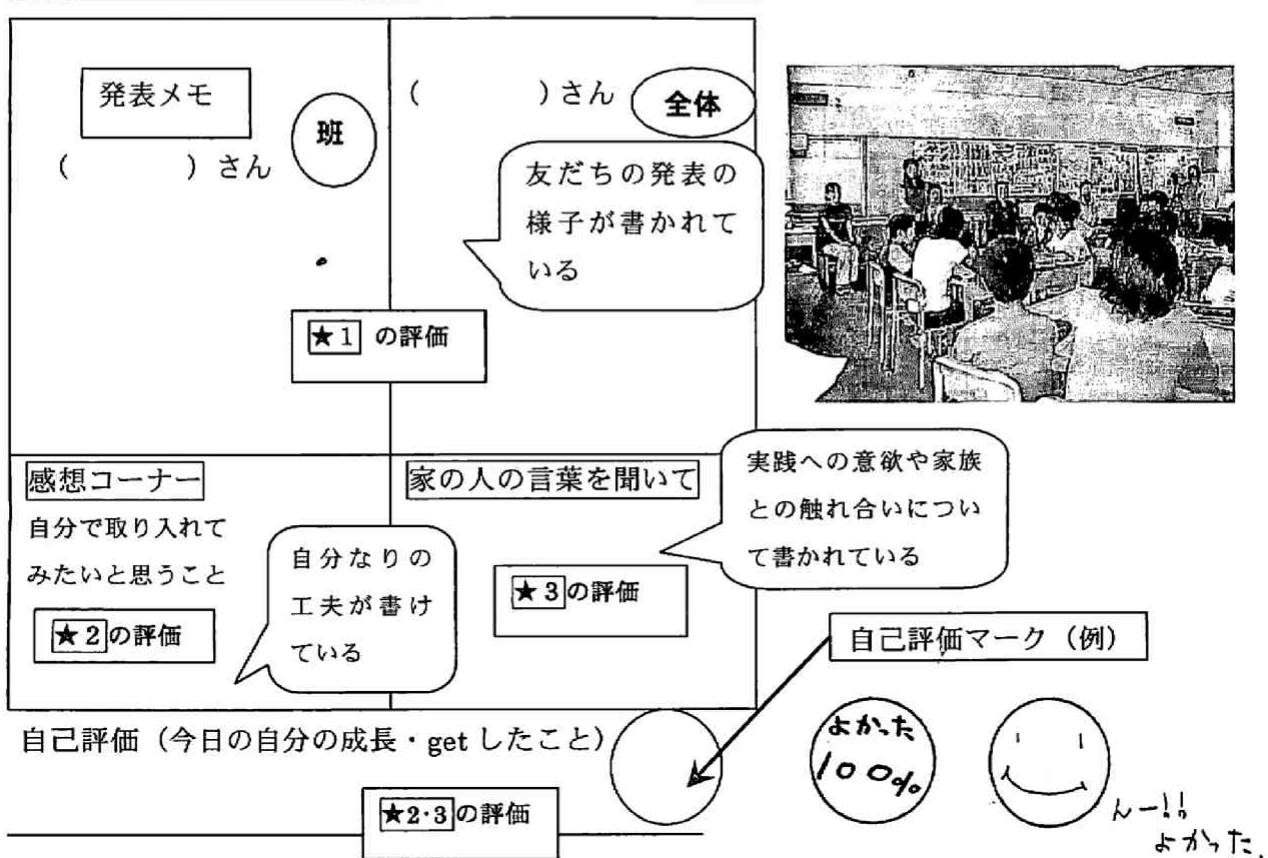
「十分満足」

家族とのかかわりから感想が書けていて、実践への意欲が見られる。

○本時の学習カード

氏名： _____ No. _____

今日の目標



③ 考察

○家族とのかかわりを大切にした題材構成の工夫・・・今回題材に入れた実践報告会は、今まで家庭科で学習したことを夏休みに実践し、その報告をして得た情報を子どもと家族で共有化する点や、次に学習する「楽しい食事を工夫しようⅡ」の導入として効果的であった。夏休みの実践を報告しあう場面では、子どもたちに何の目的で発表するのかを明確にし、家族の人と過ごす楽しい時間に焦点をあてて助言することが大切であった。

○家族を交えた指導法の工夫・・・家族が授業に参加して直接アドバイスしてもらったことで家族の思いが子どもたちに伝わった点がよかった。家族の人からの言葉は素直に聞き入れられたことが、「どんな小さなことでも家の仕事をしたい」「親に感謝したい」などの感想に表れている。友だちや家族の言葉を聞いて温かい気持ちになったことや次の実践の意欲につながったことは、「心豊かに」という主題に近づいたように思う。

○学習活動の過程における評価の工夫・・・学習カードを工夫してカードの最後に、自己評価をマークにして表すようにした。その後も同じ形式の学習カードを使用し、積み重ねていくことにより、いつでも学習を振り返れるようになった。本時では自己評価に、100%やにっこりマークと書いた子どもたちが多く見られたことから、学習への満足感が表れていた。子どもたちは学習カードにより、自分の生活を見直すきっかけとなり、今後どのように生活をよりよくしていったらよいか考えるようになった。

事例2 家族といっしょに我が家のみそ汁を考える

事例3 家族といっしょに一食分の食事を考える

(1) 題材名 第6学年 「楽しい食事を工夫しようⅡ」

(2) 題材について

店には手軽な冷凍食品やレトルト食品・ファストフードが溢れ、外食産業も盛んになっている。食生活が一見多彩になっていると思われがちであるが、問題も多い。栄養バランスの偏った食事や食べ方の乱れによって子どもの健康が危惧されている。一方では、家庭での料理の味が失われつつある。また、家族が食卓に集まっても異なったものを食べていたり、子どもが独りだけで食べたりしている家庭も増えつつあり、家族そろって楽しく食事をする場も少なくなってきたのが現状である。

この題材では、自分の日常の食事を見直し、食品を組み合わせるとる必要性に気づき調和のよい食事のとり方がわかるようにすることをねらいとしている。また、家族と一緒に食事をする大切さを理解し、よりよい食生活を進んで実践できるようにしたいと考える。日本の伝統的な日常食であるごはんのみそ汁の調理について学習し、ごはんのみそ汁を中心にした1食分の食事作りを計画しそれぞれの家庭で実践していくのであるが、常に「わたしの家族」を意識して学習を展開していく。そのひとつとして、「家族と共に考え協力していく」学習の場を設定した。家族の人が授業に参加し、考えや経験を直接話してもらうことで、家族が共に食事をする事の果たす意味も考えやすくなり、家族と楽しく食事をするための工夫もできるようなものと考えたからである。また、常に自分の家庭生活を意識ながら学習していくことで、学習意欲が高まり、学習後の家庭での実践にも円滑につながっていくと考えた。

(3) 題材の目標

○ 家庭生活への関心・意欲・態度

日常の食生活の仕方を見直し、よりよい食生活を進んで実践しようとする。

○ 生活を創意工夫する能力

家族とのかかわりを通して家族の好みや健康を考えながら、ごはんのみそ汁を中心に1食分の食事を工夫する。

○ 生活の技能

ごはんのみそ汁を作ることができ、栄養のバランスを考えて、ごはんのみそ汁を中心に1食分の食事の計画を立てることができる。

○ 家庭生活についての知識・理解

一食分の食事作りの条件や、家族といっしょに食事をする大切さを理解する。

(4) 本事例と研究主題に迫るための手だてとの関連

① 家族とのかかわりを大切にしたい題材構成の工夫

実態調査の結果から、子どもたちにとって食事の時間は家族と触れ合う大切な時間であることが分かった。その時間を楽しく過ごすための工夫として、家族のことを考えた食事作りができるようになることは大事な要素となると考える。

題材名を「楽しい食事を工夫しようⅡ」とした本事例では、「楽しい食事を工夫しようⅠ」で身に付けた食に関する基礎的な知識や技能を高めながら、家族との楽しい食事の場を主体的につくっていかうとする子どもを育てたいと考えた。そこで、家族とのかかわりを大切に、内容(4)「食事への関心」と内容(5)「簡単な調理」及び内容(1)エ「家族との触れ合いや団らんを楽しむ工夫」を関連付けて構成した。

② 家族を交えた指導法の工夫

本題材ではごはんのみそ汁を中心とした一食分の食事を考えることができるだけでなく、家族とのかかわりを大切にすることに重点を置き、家族のために作る食事をめざすための指導法を工夫した。

自分の食生活を見つめ直すとき、授業中に日ごろの様子を思い出したり、家庭学習として観察したり家族に聞いたりしたことを記録してくることが多い。しかし、家庭科の授業の中で日ごろ食事を作っている家族の生の声を聞き、一緒に学習することができればより身近に家族を感じ、家庭生活への実践に生かそうとする意欲付けとなると考え、家族を交えて学習を進めることとした。

ごはんのみそ汁の作り方を調べ、一食分の食事を作る計画を立てるときに、米のみそ汁についての知識を得、作り方を知るとともに、家族のための工夫にも気付くようにした。そして、一人一人が調べたことを持ち寄り発表しあうことで、それぞれの家庭での工夫を知り、自分たちの調理に生かすことができるように考えた。その際、実際に家族を交えて計画を立てることで、食事を作るときに家族への思いなどを直接聞き、家族のための食事作りに近づけるようにした。

家族の学習参加に際しては、以下の点に配慮した。

- ・校内の教職員の共通理解を図り、協力を得るために、学年会等で趣旨を説明する。
- ・保護者あてに参加依頼の通知を出し、学習のねらいと登場場面や話す内容を細かく知らせる。
- ・授業前に打ち合わせをすることで、家族が参加する意図と役割をより明確に理解してもらうようにする。

③ 学習活動の過程における評価の工夫

- 学習の過程で、学習活動の様子を観察しながら、評価していく。その

<参加依頼の手紙>

平成 14 年 10 月 1 日	
6 年 組	〇〇〇〇保護者殿
	〇〇小 家庭科担当
	〇〇小 家庭科担当
	〇〇〇〇
家庭科の学習について	
お忙しいにもかかわらず、家庭科の学習に参加していただけることになり、まことにありがとうございます。「食」の学習にも、家族とのかかわりの大切さを取り入れたいと考えています。保護者のみなさまに参加していただくことで、この学習が子ども達にとって実り多いものとなることを思っています。	
学習の流れは以下の通りです。九数字の場面でお話をさせていただくように考えていますのでよろしくお願いいたします。	
1	課題の確認 「一食分の食事を計画しよう」
2	保護者の紹介
3	班ごとの話し合い (子ども達の話し合いですが、たずねることがありましたら答えてあげてください)
4	各班の発表
5	朝食一食分 (ごはんのみそ汁を中心とした) を決めるときに、家族のために大切にしていることや工夫していること。
例：家族の健康 (塩分ひかえめなど) 栄養的なバランス (嫌いなのは小さく切ったベヤとするなどの工夫) 好み (家族の好みに違いがあるときの工夫) 家庭に伝わる味、季節の食品、食品の組み合わせ、味のバランス、味付け、調理方法、品数、色どり、予算、家族を思う気持ち。	

際は座席評価表を使用し、子どもの思考の変容やその過程を見取るようにした。

- 学習カードに学習活動の記録と振り返りの欄を設け、評価していくようにした。また、振り返りの欄では子ども自身も身に付いた力を確認し、変容の様子が分かるようにした。
- 調理実習のように作品が残らず、その時間内で評価しなければならないときには、活動の様子やでき上がった作品をカメラに収めておくなどの工夫をした。

(5) 本題材の指導計画(12時間扱い)

(関) -----家庭生活への関心・意欲・態度

(創) -----生活を創意工夫する能力

(技) -----生活の技能

(知) -----家庭生活についての知識・理解

時間	学 習 活 動	評 価 家族とのかかわりに関する評価※	評価方法
3 時 間	○日常の食事の仕方を見直し、食事作りについて考える。 ・毎日の食事を見直し、気付いたことを話し合う。 ・家庭での食事作りで気を付けていることを調べ、発表する。 ・米とみその栄養的な特徴を調べ、ごはんのみそ汁のよさを考える。	・毎日の食事を見直し、よりよい食事について考え、学習の進め方の見通しをもとうとする。(関) ・自分の毎日の食事に関心を持ち、意欲的に調べている。(関) ・調べたことから自分の食生活を見つめ直し、課題を見付けようとする。(関) ※家族の健康や好みなどを考えて毎日の食事を作っていることに気付く。(関) ・米とみそに関心を持ち、栄養的な特徴を調べている。(関) ・米とみその食品としての特徴が分かる。(知)	対話 学習カード1 発表の内容 学習カード1 活動の様子 学習カード1
6 時 間	○ごはんのみそ汁の作り方を調べ、調理実習をする。 ・ごはんの作り方を調べる。 ・調べたことを発表し合い、実習計画を立てる。 ・計画に沿って実習をする。 ・みそ汁の作り方を調べる。 ・調べたことや家族の人のアドバイスを参考に、グ	・ごはんの作り方について関心をもって調べている。(関) ・進んで話し合いに参加し、意欲的に調理計画を立てている。(関) ・ごはんの作り方が分かる。(知) ・炊飯ができる。(米の洗い方、水 加減、浸水時間、加熱の仕方) (技) ・炊飯の仕方を工夫している。(創) ・みそ汁の作り方について関心をもって調べ	学習カード2 実習計画 学習カード2 観察 学習カード3

	グループごとに我が家のみそ汁を考える。 ＜事例2＞ - グループごとに協力して実習計画を立てる。 - 計画に沿って実習をする。	ている。(関) - 進んで話し合いに参加し、思いを実現しようとしている。(関) - みそ汁の作り方が分かる。(知) ※家族のことを考えたみそ汁を工夫している。(創) - 材料の分量を計算したり、手順や時間配分を考えて実習計画を立てることができる。(技) - みそ汁を作ることができる。(だしのとり方、みその扱い方、実の切り方、入れる順序) (技)	話し合いの様子 学習カード3 実習計画 観察
3時間	○一食分の食事を考える。 - いろいろな食品を組み合わせる意味を考える。 - 食品や栄養のバランス、家族の好みなどを考慮して、一食分の食事を考える。 ＜事例3＞ - 家族で楽しく食事をする方法を考える。 - 実践計画を立てる。 - 実践報告をする。	- いろいろな食品を組み合わせる大切さが分かる。(知) - 良い食事の条件をまとめることができる。(知) - ごはんのみそ汁を中心に一食分の食事を考えることができる。(技) ※家族と一緒に食事をする大切さが分かり、よりよい食生活について考えようとしている。(関) - 楽しく食事をするために工夫している。(創) - 家庭で実践できるよう、具体的に計画を立てている。(関) - 友達の工夫したことを自分の家庭生活に取り入れようとしている。	学習カード4 学習カード4 発表の内容 観察 実践計画 実践報告 学習カード5

(6) 事例2 本時の学習

① 目標

みそ汁の作り方を知り、家族の健康や好みを考えて我が家のみそ汁を作る計画を立てる。

② 展開

学 習 活 動	教師の支援 (○) と 評価 (*)	配慮事項 (・) と 評価方法 (*)
・家族の人が作ったみそ汁を観察し、味わう。	○家族が作ったみそ汁を味わうことで、みそ汁作りに興味をもつとともに、見通しをもって活動できるようにする。	・だしのとり方、みその量、実の取り合わせや切り方な

・本時の課題を確認する。	*みそ汁の実や作り方に関心を向けている。 (関) ○本時の学習の流れを理解し、見通しをもって学習を進められるようにする。 *本時の課題をもつ。(知) *みそ汁作りに意欲をもって取り組もうとしている。(関)	ど、基本的なみそ汁を教科書を参考に作ってもらうようにする。 ・同じグループの人を家族と考え、我が家のみそ汁を考えるようにする。 *発表の内容
---------------------	--	---

我が家のみそ汁を作ろう

・グループ内でみそ汁の作り方について調べたことを発表し合う。 ・家族の人から、みそ汁を作るときに家族のために考えていることを聞く。 ・グループの人の発表や家族の人のアドバイスを参考に、我が家のみそ汁の作り方を考える。 みそ：種類、分量、溶き方、入れる時期 だし：種類、分量、とり方 実：種類、切り方、煮る順序	○それぞれの家庭の作り方を知り、自分の家庭との違いや似ているところに気付くようにする。 *調べたことを意欲的に発表している。(関) ○家族のために工夫していることを中心に聞くようにする。 *家族の人の話を、関心をもち聞いている。(関) *みそ汁は家庭によって様々な作り方があることが分かる。(知) ○作り方の手順カードを見ながらまとめることができるようにする。 ○おいしさに加え、家族の健康や好みを考えて、我が家のみそ汁作りを目指すようにする。 ○自分たちのみそ汁に名前を付けるなどして愛着を持ち、楽しんでみそ汁作りに取り組むようにする。 *進んで話し合いに参加し、意欲的においしいみそ汁を作ろうとしている。(関) *食品の特徴を生かして、おいしいみそ汁作りを考えることができる。(技) *友だちの発表や家族の人のアドバイスを参考に我が家のじまんのみそ汁を工夫することができる。(創) *みそ汁の作り方が分かる。(知)	・発表を聞きながら使ったみそや実、作り方など参考になったことがメモできる学習カードを用意する。 *学習カード ・家族の人には、話し合いの途中で困っているときや、迷っているときなど、子どもたちの考えを大事にしながら、いつも家族のために作っている立場としてアドバイスしてもらうようにする。 *話し合いの様子 *学習カード
--	---	---

我が家のみそ汁の作り方を発表しよう

・家族のために工夫した点を中心に我が家	○家族のために思って作ろうとしている発言を認めるようにする。	*発表の様子
----------------------------	---------------------------------------	---------------

みそ汁の作り方を発表する。	* じまんのみそ汁作りの工夫したところを意欲的に発表している。(関)	
・本時の学習を振り返る。	○ 家族の人に本時の感想を聞く。 ○ 本時の学習で学んだことを学習カードに記入する。 * 実践への意欲や家族との触れ合いについて書かれている。(関)	* 学習カード

① 考察

○ 家族とのかかわりを大切にしたい題材構成の工夫

本事例は、5 学年の「クッキングにチャレンジⅠ、Ⅱ」及び6 学年の「楽しい食事を工夫しようⅠ」で身に付けた基礎的・基本的な力を基に、みそ汁の作り方を知り、我が家のみそ汁を作る計画を立てるという構成にした。我が家のみそ汁作りの計画を立てるときに、グループのメンバーを家族と見立てて考えることで、家族に関心を向け、楽しい食事作りのために工夫しようとする意欲が見られるようになった。

家庭科の学習は、自分の生活を見つめ直すことから始まるが、子どもたちの家庭は個々に違い、みそ汁をあまり飲まない子もいた。しかし、みそやみそ汁のよさが分かり、家族のための工夫ができたことで、自分も学習したことを生かして実践してみようとする子が多くなった。これまでの学習では、学習後に実践する子は38人中10人程度だったが、今回は20人程度と増えた。本事例の学習を通して、食事への関心が高まり、実践する子が増えるなどの変容が見られた。

しかし、家族とのかかわりを大切にしたい楽しい食事を工夫するためには、「楽しい食事を工夫しようⅠ」での基礎的・基本的な内容の定着が不可欠である。指導の系統性を考え題材ごとに、指導すべき内容を確実に指導できるよう、年間計画立案時に内容項目を確認し、指導法も含めた検討が必要である。

○ 家族を交えた指導法の工夫

家族と共に学習を進める方法として、事例2ではまず、導入で家族の人が作ったみそ汁を全員が食べるという体験を取り入れた。ここでは、子どもたちから、みそのこと、実のこと、だしのことなど様々な感想を聞くことができた。

この体験では、家族の手作りのみそ汁を味わうところに意義がある。みそ汁を作る時にどのような工夫があるか関心をもち、家族の人に直接聞こうとする態度が見られた。

家族のための工夫として子どもたちは、栄養のバランスや好みについて考えることはできていたが、家族の人の話から、さらに、以下の点について知ることができた。

- ・嫌いなものを食べやすくする工夫をしていること。
- ・体調に合わせて食品の組み合わせや調理方法を変えていること。
- ・塩分を控えるなど、家族の健康を気遣っていること。
- ・季節(旬)の食材を取り入れていること。

等である。それらのことを家族の人の生の声で聞くことにより、子どもたちは毎日の食事を作っている家族の愛情を強く感じる事ができた。

また、子どもたち一人一人が調べてきたことをグループ内で発表し合い、我が家のみそ汁作りの計画を立てるときに、家族の人がアドバイザーとして参加することにより、話し合いが活発になったという感想もあった。メンバーを家族と見立てた各グループが、我が家のみそ汁に付けた名前に家族を思う気持ちがよく表れていたが、家族の人のアドバイスにより実の取り合わせや分量を考えて計画を立てることができた。また、導入でのみそ汁が教科書を参考にした、基本的なものだったため、「見本となるみそ汁を作ってくれたので、みそ汁を作るときに実の大きさなどが分かりやすかった。」という感想が聞かれ、みそ汁作りに具体的な見通しをもつことができた。

自分たちの思いが実現する見通しがもてたことで、次の学習に向けての期待と家庭での実践への意欲につながっていった点にも家族とともに学習した効果が見られたと考えられる。



自分たちが毎日自然のように食べているみそ汁には、家族の愛情・工夫がたくさん入っていること分かった。

家族の状態や好みによっておみそ汁の味や実を変えていることが分かり、家族のことを考えているんだなあと考えた。

栄養に気を付け、バランスよくみそ汁を作っていることが分かった。

家族の人と一緒に食事のことを考えることができてよかった。

おみそにこだわったり、栄養のことを考えて具たくさんにしたり、季節（旬）の野菜などを入れていることが分かった。



○ 学習活動の過程における評価の工夫

内容（１）エの評価の規準を次のようにし、＜学習カード３＞を使って行った。

＜学習カード3＞ （2時間扱い）

みそ汁の作り方を調べよう

* みそ: 種類、分量、とき方、入れる時期

だし: 種類、分量、とり方

実: 種類、切り方、なる順序

* 家族のために工夫していることを聞いてみよう。

今の季節 秋のみそ汁

さつまいものおみそ汁

材料

- ・ さつまいも 1本
- ・ 青じそ
- ・ だし 1カップ
- ・ みそ 大さじ4

作り方

実の切り方

さつまいもをさく

お湯に10分煮る

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

にきつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

最後にきつて

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

きつて5分

		おおむね満足の規準
★ 1	関	・ 自分の家庭のみそ汁の作り方を調べている。
★ 2	知	・ みそ汁の作り方が分かる。 ・ 家庭によって様々な作り方があることが分かる。
★ 3	創	・ 友だちの発表や家族の人のアドバイスを参考に好みや健康を考えた我が家のみそ汁を工夫している。
	技	・ 材料の分量を計算し、手順や時間配分を考えて計画を立てることができる。
★ 4	知	・ 実践の意欲や家族との触れ合いについて書かれている。

みそ汁作りの計画を立てよう

* 家族のために工夫しようと思うこと

季節の品をたくさん入れること

野菜

* 自分たちのみそ汁に名前を付けよう

心のこもったおみそ汁

* 材料

みそ

種類 (赤みそ 75g)

分量 (75g $\times \frac{1}{2} \times 5人分$)

だし

種類 (にぼし こんぶ)

分量 (75g)

菜

・とうふ

・大根

・人参

・ねぎ

・おくら

・ほうれん草

分目

工藤

みそ、人参

永見

大根

村上

長ねぎ

城倉

油あげ

坂口

とうふ、ほうれん草

* 作り方

1. だしを取る。だしはなべに水を入れ
にぼしを人数に適した量を入れる

2. その30分の間にほうれん草をゆでる
(30分)
また、油あげは湯でし、他の野菜は
炊きおく

3. 30分後...
だしをとったら、強火にかけてふたをしたら
5分間にする

4. 次に具を入れる。具は、
にぼし以外の物から順に上
れる、(とうふは最後に)
仕上げで、たら...
出来上がり

<今日の感想、自分の成長、getしたこと>

1) 自分で何に気がついたか、そのgetしたことを人に伝える
ことができた。このgetしたことを人に伝えることが
できた。

また、家族の人と来てくれたことで毎日自然のように
食っているみそ汁には、栄養のこもった、色とりどりとした色んなものに気がつくことが
分かった。

学習カードに書かれている内容を見ると、「家族のために工夫しようと思うこと」に★1、2の学習が★3で生かされ、我が家のみそ汁作りを工夫しようとしていることが分かる。このように、学習カードを活用し学習の過程を記録していくことで、子どもの変容の様子を知ることができる。

また★4では、この学習で学んだことの中に、家族が学習に参加したことによる効果も書かれており、家族を大切にして、楽しい食事を工夫していこうとする態度が見られたと考えられる。

(7) 事例3 本時の学習

① 目標

一食分の食事(朝ごはん作り)に必要な条件を考え、計画を立てられるようにする。

② 展開

学 習 活 動 (・)	教師の支援 (○) と評価 (*)	・配慮事項と*評価方法
・ 本時の課題を確認する。	○ 本時の学習の流れがわかり、見通しをもって進められるようにする。 ○ 参加してくださる家族の人を紹介する。	
朝ごはん作りの計画の立て方を考えよう		
・ 朝ごはん一食分を決めるための工夫について 班で話し合う。 食品の組み合わせ 栄養的なバランス 調理方法や時間 季節の食品 家族の健康状態 好み・予算 など ・ 班で話し合ったことを発表する。 ・ どんなことを考えて朝ごはんを作っているか 家族の人から話を聞く。	○ 調べたことや聞いてきたことをもとに話し合うようにする。 ○ 話し合いの中で、大切だと思ったことは学習カードに記入するようにする。 * 調べてきたことをもとに、意欲的に発言をしている。(関) ○ 班の発表や家族の人の話を学習カードに記入させる。 * 朝ごはん作りの計画を立てるための条件が分かる。(知)	学習カードNo.4 * 観察 ・ 保護者の方には子どもの考えを尊重しながらいつも家族に作っている立場でアドバイスしてもらうようにする。 * 学習カードの記入
朝ごはん作りの計画を立てよう		
・ 家族のために、工夫することを考える。 ・ 工夫したことをネーミングで表す。 米ごはんのみそ汁を中心とした一食分を考える。 ・ 本時の学習を振り返る。 ・ 次時の学習内容を知る。	○ 一人一人が工夫することを考えながら、朝ごはんの計画に取り組めるようにする。 ○ 工夫したことがわかるような名前を考えられるようにする。 * 家族のための朝ごはん作りの計画に意欲的に取り組んでいる。(関) * 家族のための朝ごはん作りの計画を工夫して作ろうとしている。(創) ○ 家族の人に本時の感想を聞く。 ○ 本時の学習で学んだことを学習カードに記入させる。 ○ 具体的に計画を立てるので家族に聞いたり資料を用意するよう伝える。	* 観察 * 学習カードの記入

③ 考察

○ 家族とのかかわりを大切にしたい題材構成の工夫

ここでは、「クッキングにチャレンジⅠⅡⅢ」や「楽しい食事を工夫しようⅠ」と「楽しい食事を工夫しようⅡ」のごはんとみそ汁で身に付けた力をもとにして、一食分の食事を家族のために考えることとした。常に「家族のために」の意識をもちながら学習していくことで、家族に関心を向けることができた。本事例後の家庭での実践では、多くの子どもたちから家族に食事を作ったことが報告された。

実践した内容をみると、今までに学んだ野菜料理やたまご料理やじゃがいも料理との組み合わせが多く、家庭科での学習が生かされていることが分かった。

○ 家族を交えた指導法の工夫

一食分の食事を決めるための工夫について、家族と見立てた班での話し合いでは、家庭での観察や家族に聞いてきたことをもとに意見を出し合った。そこに家族の人にも参加してもらい、毎日食事を作っている立場からのアドバイスをしてもらった。「班がひとつの家族のようだった。」と感想に書いていた子どもがいた。

班の発表からは、栄養のバランスや食品の組み合わせや好みが多く出され、これらが大切な条件であることが分かった。家族の人の話からは、「元気になるように温かいものを作る」「味付けに気を付ける」「給食のメニューと重ならないものにする」「体調が悪い時はさっぱりしたのにする」など、家族のことを思い家族の健康を気遣いながら食事を作っていることを知ることができた。家族の人の話を直接聞くことができたことは、子どもたちの朝ごはんに対する意識を高め、家族のための朝食作りを考えるための手だてとなり、具体的な朝ごはん作りの計画へと進めていくことができた。学習カードの感想には、子どもたちが家族のかかわりをよりよいものにしていこうとしていることが書かれていた。

大人の立場から家族のことを考えて作っている朝ごはんの意見を聞くことができてよかったし、朝食の事がわかって、私も作ってみたいと思いました。

みんなとても工夫をしているのでとても驚きました。お家の人が朝ごはんにいろいろな工夫をしているので朝ごはんは大事に食べたいです。

○ 学習活動の過程における評価の工夫

評価の方法として学習カードを工夫した。子どもは学習活動の記録や学習の振り返りに使い、自分の成長をみることができた。また、その様子や意欲を教師は見取った。

観点	評価規準 内容(1)エ	本題材の具体的な評価規準
生活を創意工夫する能力	家族との触れ合いや団らんを楽しくもてるよう、考えたり自分なりに工夫している。	友達の発表や家族の人の話を参考に、家族の好みや健康を考えながら一食分の食事を自分なりに工夫している。

「作りたい朝ごはん」

とても勉強になりました!! 好きなものもと入れて、
家で、いっしょに、朝ごはんを作れるように

おいしく工夫！朝ごはん

内容 (1) エの
評価

- 23 -

IV 研究のまとめと今後の課題

子どもたちが自分の生活を振り返り、家族とのかかわりを大切にし、学んだことを自分なりに工夫することで、よりよい家庭生活へつなげる授業をつくろうと研究を深めた。研究の成果を次のようにまとめた。

1 研究の成果

(1) 家族とのかかわりを大切にした題材構成の工夫

系統的に年間指導計画を作成したので、基礎的・基本的な能力を生かし、応用して、家族とのかかわりを大切にする題材に取り組むことができた。子どもたちは、自分の食生活を見直して、主体的によりよくしようと工夫するようになった。「食」を意識して考えるようになり、家族の大切さを理解し、家族の一員としてよりよい家庭生活を目指すようになった。

(2) 家族を交えた指導法の工夫

自分の食生活に対する課題の気づかせ方として、家族の人に参加してもらう授業を研究した。校内で共通理解を図り、家族の人に依頼文を出した。出席した家族の人がわかりやすいように本時の学習の流れを作成し、ねらい・指導方法・留意点などを事前に打ち合わせをした。「夏休み実践報告会」・「楽しい食事を工夫しようⅡー我が家のみそ汁作り計画」・「楽しい食事を工夫しようⅡー朝ごはん作りの計画」の授業に家族の人に参加してもらった。家族の人から直接話してもらうことで子どもたちは、参考になった・関心が高まったなど意欲的になり、活発な話し合いができた。その結果、栄養のことと家族のことを考えて計画し、それぞれの思いが込められた実習につなげることができた。参加した家族の人から、有意義な時間が過ごせ、食生活について再確認できたという感想を得た。その後、参加できなかった家族の人から、会話も増え、一緒に料理をする回数も増えたなどの感想も寄せられた。自分の家庭生活を見直して、自分なりに工夫できることを見つけ出し、進んで家庭生活に生かそうとすることが心豊かな生活をつくり出すことにつながることが分かった。

(3) 学習活動の過程における評価の工夫

学習活動の過程における評価は、子どもたちの変容が分かる学習カードが効果的であることが分かった。学習の様子が分かるように、学習カードの項目を次のことに留意して作成した。「興味・関心が高まるように、思考の流れが止まらないように、学習したことを振り返ることができるように、分かりやすい言葉」の4つのポイントを抑えた。カードを重ねていくごとに子どもたち自身が学習したことを振り返り見直すことができた。

2 今後の課題

授業は意図的・計画的に進めるものであり、家族の人の参加については、学習の意図を明確にし、どのような授業展開にするか・時間配分・意見の出し方などを周到かつ具体的に打ち合わせる必要がある。また、自分の生活を見直して、家の仕事の中でできることを増やし、進んでよりよい家庭生活を工夫できるようにするためには、基礎的・基本的な技能の定着が重要である。今後は、基礎的・基本的な技能の定着を図り、身についた技能を活用できる力をつける指導法の工夫についてさらに研究を深めたい。